

授業科目名	言語圏文化論(中)	選 択	開講年次	1	単位数	2
科目区分	基本科目					
サブタイトル	日本の漢字から見る中国文化との係わり合い	担当者	加藤 阿幸			
講義概要	<p>【概要】 漢字の形成と語彙を通じて、中国社会、生活、思想と基本的関係を概説し、日本とのそれぞれの相違を探ります。</p> <p>【到達目標】 漢字のもつ文化的要素の重要性を再認識させること。</p>					
履修条件	自分の姓名の成り立ちに興味を持つ人。					
教科書・参考書	<p>【教科書】特になし。</p> <p>【参考書】 『漢字と文化』(藤堂明保著、徳間書店、1993年)、『教養の漢字学』(阿辻哲次著、大修館書店、1993年)</p>					
授業回数	内容					
1	ガイダンス。授業内容概説及び単位の取得の仕方。					
2	文字の発生—漢字と世界の象形文字との比較					
3	漢字の文字はどのようにつくられたのか—許慎の『説文解字』の世界。					
4	象形文字とは — — 山、川、日、雨					
5	指示文字とは— — 本、刃、血、上、下					
6	会意文字とは— — 従、衆、林、多、轟					
7	形声文字とは— — 江、河、詩、没、雲					
8	転注、仮借文字とは— — 好、止、莫、我					
9	中国古代王朝名と漢字の関係— — 夏、商、周					
10	日常生活から得た漢字— — 衣、善、美					
11	漢字で分かる古代女性の悲哀— — 娶、婚、奴					
12	日中同形異義語— — 手紙、汽車、猪、床					
13	日本の国字はどうやって作られたのか— — 辻、峠、袴					
14	明日と明白の「明」の読みはなぜ違うのか— — 日本の漢字の音読みと中国語					
15	漢字の発生のビデオ鑑賞					
評価方法	板書された及び口述内容をまとめたものを最低10枚提出し、その他に、自分の氏名の漢字の成り立ちを調べるか、或いは日中文化比較を書くか、文字数として最低800字レポートにして提出すること。					
評価基準	上記授業の単元の内容について、決められた枚数によく書きまとめ、かつレポートの内容も適切に表現できたものには「A」を与える。単元の内容についての理解やまとめが不適切な点がある者には、その程度に応じて「B」または「C」とし、指定した枚数や字数が足りない者はその程度に応じて「D」または「E」とする					
その他	出席は三分の二以上が必要である。					